「はじめる」から「かなえる」へ。福島県では、震災から10年を機に「ふくしまから はじめよう」からのバトンを渡す、新スローガン「ひとつ、ひとつ、実現する ふくしま」を策定しました。復興に向けて歩んできた「これまで」と、新しい未来に繋げていく「これから」と、県民のみなさんひとりひとりの「今」を重ねたメッセージです。

介護人材確保に向けた取り組みについて

福島県　社会福祉課

県内の高齢者人口は、団塊ジュニア世代が高齢者となる2040年よりも前の2030年にピークを迎え、その後は大きな変化がない状態で推移していく一方、生産年齢人口は年々減少を続け、2030年には2020年の約８割に、2040年には約７割にまで減少し、介護人材不足はより深刻化していくことが予想されます。

また、東日本大震災により甚大な被害を受けた相双地域などにおいては、特に介護人材の確保が困難となっています。

このため、福島県では、介護人材確保に向け、５本の柱（「介護イメージアップ」「人材マッチング」「人材確保」「人材育成」「人材定着」）に基づく取り組みを基本とし、３つの戦略（「さらに魅力ある職場をつくる」「魅力ある職場を発信する」「被災地の介護人材を確保する」）に重点的に取り組んでいます。

以下、その取り組みの主な内容をご紹介します。

ホームページで詳しい情報を公開しています。 福島県　社会福祉課 検索

さらに魅力ある職場をつくる

介護助手の採用支援

介護の仕事内容は、食事介助や入浴介助など利用者と直接関わる専門的な業務から、清掃、洗濯、配膳・下膳（さげぜん）、シーツ交換など利用者との関わりが比較的少ない補助的な業務まで多岐にわたります。そのため、介護サービスの質の向上はもとより、介護職員の時間的、身体的、精神的な負担軽減を目的に、補助的な業務を行う「介護助手」の採用を希望する事業所に対して、介護助手導入の手引き作成などによる体制づくり支援や新聞折込みチラシなどによる介護助手募集支援を行っています。昨年度は53事業所を支援し、107名の介護助手採用につながりました。

介護助手は、専門的な知識や技術を必要とする業務には従事せず、介護に関する経験や資格の有無を問わないため、地域の元気な高齢者や空いている時間を有効活用したい方などにも適しており、多様な働き方や介護人材の裾野拡大も期待されます。

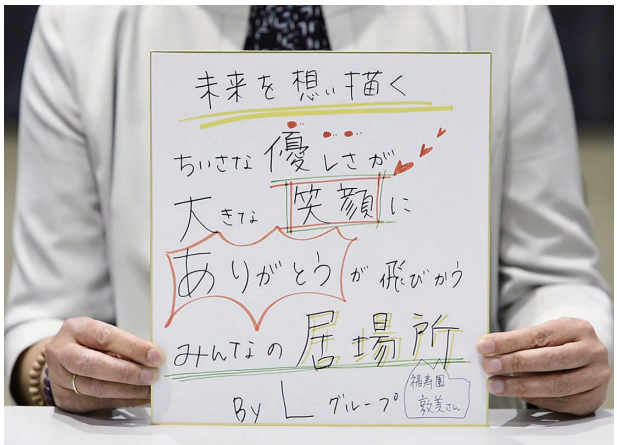
福祉・介護職員のつどい

介護職は、入職後３年以内の離職率が高い状況にあることから、新たに福祉・介護職員となった方々においては、職場にしっかりと定着いただく必要があります。そのため、モチベーションの向上や職務への誇りにつながる取り組みとして「福祉・介護職員のつどい」を開催し、知事から激励の言葉を送るとともに、職員同士が交流する機会を設けています。

新型コロナウイルス感染症の影響により、２年間中止が続きましたが、昨年度は、現地とオンラインのハイブリッド型で開催し、参加した109名の職員が福祉・介護の未来を想い描くキャッチコピーを決めるなど、交流を深めました。

今年度は、７月に開催する予定です。

（昨年度の「福祉・介護職員のつどい」の様子）



（福祉・介護の未来を想い描くキャッチコピー）

魅力ある職場を発信する

キラリふくしま介護賞

学生やその親世代が持つ介護のイメージと介護の現場で働く職員が感じている実態に乖離が生じていることから、介護の仕事に関する正しい情報発信を行うことにより、介護職のイメージアップを図ることが重要です。

そのため、介護職を目指す学生や他の介護職員の目標・憧れとなる働き方を実践している介護職員、労働環境・処遇改善などについて優れた取り組みを行っている介護施設などを知事が表彰する「キラリふくしま介護賞」を実施しています。

授賞式は、介護の日（11月11日）をめどに行っており、受賞された方には、介護を目指す学生との交流会などで講師を務めていただくなど、介護職の正しい情報発信に積極的に関わっていただいています。

（授賞式の様子）

クリエイターとの連携

昨年度は、「クリエイティブの力で介護をブランディングする」をコンセプトに、全国で介護の仕事の魅力発信に取り組んでいる一般社団法人 KAiGO PRiDE と連携し、「キラリふくしま

介護賞」受賞者をモデルとした写真展を開催しました。

写真には、受賞者の介護に対するプライドや思いを込めたメッセージが添えられており、ご覧になった方からは、「介護の仕事に誇りを持っていることが伝わってきて感動した」「生き生きとした姿が素敵」「介護への就職の思いが強くなった」などの感想が寄せられました。

（写真展の様子）

今後は、市町村や関係団体と連携して、県内各地で写真展を開催することを予定しており、多くの方々に介護の仕事に興味を持っていただくとともに、介護の仕事を職業選択の一つとして考えていただけるよう取り組みを進めていきます。

一人一人に寄り添い向き合う喜びと楽しさがあふれています。

介護福祉はエッセンシャルワーカーであり、
ワークライフバランスを保ちながら活躍できる仕事。

（画像提供：一般社団法人 KAiGO PRiDE）

被災地の介護人材を確保する

被災地の介護人材を確保するため、県外から相双地域などで介護職となられる方を対象に就職準備金や研修受講料の返還免除付き貸し付けを行っており、これまでにこの制度を活用し、200名の方が介護職として採用されました。

また、県内外の介護福祉士養成施設に進学した方が、卒業後、相双地域で就労いただくことを目的とした住居費や教材費などの返還免除付き貸し付け、さらには、相双地域などの介護施設などで新規雇用され、６か月以上就労した場合の支援金の支給、あらゆる機会を捉えたこれら制度の広報など、相双地域などの介護人材の確保に積極的に取り組んでいます。

おわりに

介護人材を確保するためには、県民の皆さんに「介護の仕事」について正しく理解いただくとともに、その魅力を感じてもらうことが重要です。

県では、引き続き、介護人材の確保に向け、分かりやすい広報と積極的な情報発信に努めるとともに、各種施策に取り組んでいきます。

問い合わせ先
福島県社会福祉課　福祉・介護人材担当
電話：024（521）7322